資料紹介

郵政博物館のエンタイヤ資料

近辻　喜一

1 エンタイヤ資料

逓信博物館（昭和39年より逓信総合博物館、現郵政博物館）は、昭和49（1974）年から平成19（2007）年まで、計56号の『資料図録』を刊行し、毎回テーマを設定して同館収蔵の資料を紹介した。エンタイヤ(1)が紹介されたのは、郵便物の運送がテーマの、第17～29号の13回分である。

掲載エンタイヤの部分写真には、①種別、大きさ、貼付切手、②発信地（局）、③着信地（局）、④消印、日付などが注記される。この連載は、少数の郵趣家に注目されたが、エンタイヤ全体の画像を欠くために物足りなさが残った。延べ1,252点のエンタイヤが紹介されている。

逓信総合博物館は、平成16年より18年にかけて、所蔵するエンタイヤを消印別に整理する作業を行った。エンタイヤ一点ごとに中性紙の封筒に入れ、その表面に、資料名、整理番号、年代、名称、内容、数量、整理年月日、備考を記入した。全部で3,789点にのぼるエンタイヤが25個の紙箱に収められ、一箱あたり150点ほどになる。

表1は、この整理された資料をもとに、筆者が整理番号順に消印と郵便局およびエンタイヤ数をまとめたもので、箱番号は消印の使用開始順に付番されていた。

2 暫定データベース化

(1) 暫定データベース

郵政博物館は、「旧エンタイア資料・1」と名付けられた、この明治前期の郵便物群を収蔵する。郵趣家として本資料に着目した筆者は、このエンタイヤ資料すべてをExcelデータにまとめ、暫定のデータベースとした。その項目は、整理番号の枝番号（以下、#を付して表記）、差出人、受取人、日付書入、エンタイヤ、抹消印、差立印、到着印、中継印、差立日、備考の11項目である。例としてその一部を**表2**に掲げる。差出人、受取人などの項目では、読めない文字を■としてある。エンタイヤの項目では、封筒（郵趣用語はカバー）に貼ってある郵便切手の種類と枚数を示し、消印の項目では、外枠形状と局名・日付を、また赤字などで印色をそれぞれ示す。

さらに、注目すべきエンタイヤの整理番号枝番を赤字で強調した。たとえば、#1は明治5年の西京から防州山口あて竜切手貼カバー（**図1-1**）、#30は竜切手を貼った偽造カバー（**図1-2**）で、後者の備考欄には「愛知県公用通信封皮に竜百文切手を貼り、三島検査で消印したもの。切手・印顆ともに本物」との筆者判断を付記した。

1　エンタイヤ（entire）とは、切手を貼り、消印されて実際に郵便で送られ、配達された郵便物を意味する郵趣用語。ステーショナリー（postal stationery）と総称される、官製の封筒、はがき、帯紙を含む。郵政博物館は「エンタイア」を使用するが、本稿では多くの郵趣家が好む「エンタイヤ」を使う。エンタと略されることもある。

箱番号	整理番号		点数	消　　印	郵便局
		枝番号			
1	5311-1-1	1～13	13	不統一印：地名入検査済	西京ほか
1	5311-1-2	14～167	154	不統一印：その他	但馬豊岡ほか
2	5311-1-3	168～317	150	二重丸印：N_1B_1	東京
3	5311-1-3	318～467	150	二重丸印：N_1B_1、KG	横浜、武蔵国～美濃国
4	5311-1-3	468～617	150	二重丸印：KG、N_1B_1	美濃国～若狭国、大阪
5	5311-1-3	618～802	185	二重丸印：N_1B_1、KG	大阪、西京、神戸、近江国～豊前国
6	5311-1-4	803～952	150	記番印：イ	東京、横浜
7	5311-1-4	953～1102	150	記番印：イ～ヲ	武蔵国～尾張国
8	5311-1-4	1103～1252	150	記番印：ヲ～タ	尾張国～西京
9	5311-1-4	1253～1402	150	記番印：タ	西京
10	5311-1-4	1403～1552	150	記番印：タ	西京、山城国
11	5311-1-4	1553～1702	150	記番印：ツ、子	和泉国、大阪
12	5311-1-4	1703～1852	150	記番印：子	大阪
13	5311-1-4	1853～2002	150	記番印：子	大阪、神戸、摂津国
14	5311-1-4	2003～2152	150	記番印：ナ～ウ	近江国～信濃国
15	5311-1-4	2153～2302	150	記番印：ノ～メ	上野国～能登国
16	5311-1-4	2303～2452	150	記番印：ミ～イト	越中国～美作国
17	5311-1-4	2453～2602	150	記番印：イチ～イカ	備前国～紀伊国
18	5311-1-4	2603～2720	118	記番印：イカ～イコ	紀伊国～石狩国
19	5311-1-5	2721～2843	123	白抜記番：イー～イケー	東京、大阪、京都、神戸、岡山、長崎、箱館
20	5311-1-6	2844～2993	150	白抜十字	東京
21	5311-1-6	2994～3155	162	白抜十字	東京、名古屋、大坂、神戸ほか
22	5311-1-7	3156～3163	8	クツワ十字	横浜
22	5311-1-8	3164～3313	150	ツブレ印	東京
23	5311-1-8	3314～3446	133	ツブレ印	東京、大坂、京都、横浜ほか
23	5311-1-9	3447～3469	23	小型ボタ	大坂、京都、名古屋、横浜、高崎
24	5311-1-10	3470～3619	150	大型ボタ	東京、大坂
25	5311-1-10	3620～3789	170	大型ボタ	大坂、横浜、京都、神戸、長崎、函館ほか
計			3,789		

注　二重丸日付印を構成する基本的な因子に、「局名」「月」「日」「国名」「郡名」「年号」等があり、二重丸の内円の「局名」、外円の「月」「日」はどの二重丸印にも共通して入っている。これを除く他の因子を、それぞれ記号で、国名→K、郡名→G、年号→N、便号→Bと分類し、さらに年号は、「明治七」のように明治の入ったものをN_1、「八年」のように年の文字のみ入ったものをN_2、数字のみが入ったものをN_3と細分、便号は午前・午後と漢字表記したものをB_1、い・ろ・はのように平仮名表記のものをB_2、イ・ロ・ハのようにカタカナ表記のものをB_3と細分している。N_1B_1とは、基本の3因子に「明治」表記のある年号と午前・午後表記の便号を加えた5因子、KGは国名と郡名を加えた5因子で構成された二重丸印を示す。

表1　エンタイヤ資料総括表

⑵　消印別エンタイヤ

表3は、本資料について、消印別にエンタイヤ種別ごとの点数を集計したものである。エンタイヤで多いのは二つ折はがき、消印で多いのは記番印で、それぞれ資料全体の過半を占める。

整理番号枝番(#)	差出人	受取人	日付書入	エンタイヤ	抹消印	差立印	到着印	中継印	差立日	備考
1	西京　岡松徳兵衛	防州山口　寺田弥平・岡松亦三郎	八月五日、賃済	竜二百文×2	□西京検査済	□壬申八月五日／西京郵便役所	なし	なし	M5.8.5	200里
2	御池六軒町　水野逸作	大津新建　三宅順助	郵便、五月十八日出ス	竜百文	□西京検査済	改十八日七ツ時発	なし	なし	M4.5.18	明治4年のエンタイヤ。五月十八日出スの書入、不明箱場印あり
3	浜松ニテ　岩井政士郎	日坂宿　伊藤文七	郵便、九月廿九日午後発	和紙1銭×2	□浜松検査済	なし	なし	なし	M5.9.29	25里×2倍重量？　榛原製絵封筒（電信柱）
4	岐阜県庁	中島郡小藪原　日比予左衛門	なし	和紙1銭	□岐阜検査済	□癸酉九月四日／岐阜郵便役所	□竹ヶ鼻／郵便取扱所印	なし	M6.9.4	明治6年の地方管内官民往復郵便。模寄郵便所より別配達の書入
5	四日市　山中浜店	名古屋大船町　廻船会社	五月三十一日発ス	紅枠1銭はがき（ロ）	□四日市検査済	□五月三十一日／四日市駅郵便役所	なし	なし	M7.5.31	紅枠はがきの不統一印は希少
6	四日市　山中浜店	東京南新堀　井筒屋利兵衛	なし	脇つき1銭はがき（イ）	□四日市検査済	□三月二日／四日市駅郵便役所	○東京7.3.5午前	なし	M7.3.2	脇つきはがきの不統一印は希少
7	川崎屋権七	いセ上野　平松庄七郎	なし	二つ折1銭はがき（ト）	□四日市検査済	○伊勢四日市9.2	○伊勢上野9.2	なし	M7.9.2	上野KGの最初期使用。上野KGの郡名・安芸は奄芸の誤り
8	勢州四日市　新浜屋紋十郎	尾州竹ヶはな　米屋嘉平	十月十五日出	二つ折1銭はがき（ト）	□四日市検査済	○伊勢四日市10.15	なし	なし	M7.10.15	
9	四日市　川権	いセ上の　平松庄七郎	なし	二つ折1銭はがき（リ）	□四日市検査済	○伊勢四日市10.26	○伊勢上野10.26	○伊勢神戸10.26	M7.10.26	上野KGの郡名・安芸は奄芸の誤り
10	四日市　川崎屋権七	いセ上野　平松庄七郎	十月三十一日	二つ折1銭はがき（ヲ）	□四日市検査済	○伊勢四日市10.31	○伊勢上野10.31	○伊勢神戸10.3	M7.10.31	神戸KGの日活字は誤植。上野KGの郡名・安芸は奄芸の誤り
11	川権	伊勢上の宿　平松庄七郎	十一月六日	二つ折1銭はがき（ル）	□四日市検査済	○伊勢四日市11.6	○伊勢上野11.6	○伊勢神戸11.6	M7.11.6	四日市検査済の最後期使用。上野KGの郡名・安芸は奄芸の誤り
12	イマツ　井上宇兵衛	西京二条室町角　船田弥助	なし	脇つき1銭はがき（イ）	□今津検査済	□七月廿七日指立／西近江今津駅郵便所	○西京7.7.28日中	なし	M7.7.27	旧蔵者のメモあり
13	東海道浜松駅ヨリ　当人	西京柳馬場三条槌屋町　嶋甚右衛門	十一月廿六日夜認、廿七日朝出	二つ折1銭はがき（ヲ）	□見付検査済	○遠江見附11.27	○西京7.11.29午前	なし	M7.11.27	改見附駅ヨリ出の書入。見付検査済は読めないが、最後期使用である。はがき第二面に通信文あり。
14	但馬豊岡寺町　宮嶋屋由三郎	大坂がん京寺前　和泉屋清兵衛	酉八月十五日	和紙黄2銭	□但馬豊岡検査済	□明治六年八月十六日／豊岡郵便役所	○明治六八月十■日午前九時便／大阪郵便役所	なし	M6.8.16	
15	豊岡県物産掛	村岡　生糸改会社	なし	和紙黄2銭	□但馬豊岡検査済	□明治六年九月十三日／豊岡郵便役所	なし	なし	M6.9.13	明治6年の地方管内官民往復郵便、ラッパー（32匁）。村岡郵便局の開設はM5.7.1
16	奈良南城戸町　細川六三郎	和州高田　松村喜重郎	三月八日出	和紙黄2銭	□奈良検査済	○奈良郵便役所／八日	なし	なし	M7.3.8	差立印は黒と赤の二色印
17	柏木村　大倉直市郎	吉野郡上市村　横谷佐平	十一月三日出	和紙黄2銭	□奈良検査済	○奈良郵便役所／三日	なし	なし	M6.11.3	差立印は黒と赤の二色印。柏木郵便局の開設はM10.8.~
18	郡山陸運社　岡村	大坂南久太郎町ニ而　取締佐倉氏	四月五日	和紙朱2銭	□検査済	□五日	○大阪6.4.5午後	なし	M6.4.5	均一料金制5日目のエンタイヤ。大阪N1B1印の極初期使用
19	近江国蒲生郡上之上村　平内敬直	武州青梅森下町　近江屋武右衛門	明治七年十一月九日出ス	和紙黄2銭	□川守検査済	□川守郵便取扱所	なし	○東京7.11.13夕、○武蔵八王子11.15	M7.11.9	
20	小浜ニ而　亀太郎	伏水南浜町　大島源三郎	なし	二つ折1銭はがき（ト）	□小浜検査済	□十一月廿七日／若狭国小浜港郵便役所	なし	○西京7.11.28朝、○西京7.11.28日中	M7.11.27	小浜検査済の最後期使用
21	伏水　大村市郎右衛門	大坂博労町弐丁目　小西和三郎	十一月廿五日午後六時発	二つ折1銭はがき（ヘ）	□伏水検	○伏水7.11.25午後	○大阪7.11.26朝	なし	M7.11.25	伏水検の最後期使用。第二号／物産運輸荷扱伏水通運会社大村市郎右衛門の店判あり。
22	尾道魚久ニテ　西村	西京醒ヶ井高辻上ル　西村市左衛門	十一月十四日午後三時認メ	二つ折1銭はがき（ヲ）	□尾道検査済	□備後国尾道郵便役所印	○西京7.11.16夕	○大阪7.11.16朝	M7.11.14	抹消印・差立印とも最後期使用。はがき第三面に貼紙あり。
23	江州八まん　深尾文兵衛	西京五条八角小路西へ入　の村清太郎	なし	二つ折1銭はがき（ホ）	□八幡検査済	○近江／八幡郵便役所、廿四日発	○西京7.11.24夕	なし	M7.11.24	抹消印・差立印とも最後期使用
24	上州桐生宮東　小川清太郎	東京浅草黒船町　藤田屋徳之助	九月七日	二つ折1銭はがき（ハ）	□桐生検査済	△桐生郵便役所／九月八日	○東京7.9.9午前	なし	M7.9.8	旧蔵者の消印図あり
25	大津坂本丁　北邨瀬平	西京■■　北邨芳太郎	なし	二つ折1銭はがき（ホ）	□大津検査済	□明治七七月六日／大津郵便役所	○西京7.7.7日中	なし	M7.7.6	はがき第一面に複数の切抜あり

整理番号枝番(#)	差出人	受取人	日付書入	エンタイヤ	抹消印	差立印	到着印	中継印	差立日	備考
26	下関　河村安兵衛	京都三条通り東洞院西江入細辻伊兵衛	第七月九日	二つ折1銭はがき（ハ）	□馬関改済	○二等／馬関郵便役所、□九日	○西京7.7.14夕	○大阪7.7.14午前	M7.7.9	
27	馬関　舛屋平三郎	兵庫磯野丁　柏木庄兵衛	第十一月十八日	二つ折1銭はがき（カ）	□馬関改済	○二等／馬関郵便役所、□十八日	○神戸7.11.22朝	なし	M7.11.18	到着日時の書入あり
28	下之関　佐の屋熊次郎	石州邇摩郡宅野村　藤間太郎右衛門	第三月一日出	和紙黄2銭、和紙1銭	□馬関改済	○二等／馬関郵便役所、□二日	□大森検	なし	M7.3.2	持込税。三百文御渡被下候の到着局書入
29	茨城県水戸下市　加藤	（東京）牛込中町	第十二月廿六日発ス	和紙黄2銭	□検	□水戸郵便仮役所	なし	なし	M6.12.26	封筒上下ともカット
30	愛知県第一課	海東郡津島村　浄光寺	八月廿五日午前十時発	偽造品	ー	ー	ー	ー	ー	愛知県公用通信封皮に竜百文切手を貼り、三島検査で消印したもの。切手・印顆ともに本物。
31	南宇佐村　時枝重明	小倉木船場ニテ　藤田義寛	八年五月六日午後四時	黄2銭長形封皮（イ）	□宇佐検査	□豊前国宇佐駅郵便局	なし	なし	M8.5.6	封皮印面は郵便封皮。南宇佐郵便局の開設はM7
32	同県竹田　御牧国人	大分県府内竹町ニ而　一丸伍平	三月一日郵便	和紙朱2銭	□岡検査	○岡／郵便役所	なし	なし	M7.3.1	
33	高野山　金光院	東京芝山内八軒寺町　玉泉院	明治七年八月…	和紙半銭×4	□紀州高野山検査	□紀州高野山／郵便取扱所	○東京7.8.14日中	○大阪7.8.10朝	M7.8.-	東京の川支延着印あり
34	広島■■町　山田屋八十吉	大坂南久宝町三丁目　西川伊兵衛	六月廿七日発	和紙1銭×2	□広島検査	○安芸国郵便役所／広島、廿九日発立	なし	なし	M7.6.29	

表2　旧エンタイア資料・1①　5311-1-1（#1～#13）、5311-1-2（#14～#34）

図1-1　#1 本物の竜カバー

図1-2　#30 偽物の竜カバー

エンタイヤ	不統一印	二重丸印	記番印	白抜記番	白抜十字	クツワ十字	ツブレ印	小型ボタ	大型ボタ	計
カバー	50	18	24	4	6	1	4		37	144
竜切手	3		1							4
桜切手	46	8	22	3	5	1	2			87
小判切手	1	8	1	1	1		2		37	51
切手なし		2								2
封　皮	2	13	12	3	6		1	1	5	43
手彫	2	9	11	2	6			1		31
小判		4	1	1			1		5	12
帯　紙		3	1	1	3				8	16
書留新聞紙		3	1							4
新聞帯紙				1	3					4
定時印刷物									8	8
二つ折はがき	102	495	1,352	61	82	1	228		6	2,327
紅枠半銭		2								2
紅枠1銭	1	3								4
脇つき半銭		12	4				2			18
脇つき1銭	8	19	5	1						33
脇なし半銭		44	37	19	39	1	76		2	218
脇なし1銭	93	415	1,306	41	43		150		4	2,052
小型はがき	11	36	522	54	124	6	45		1	799
半銭カナ			2	6	24					32
1銭カナ	2		44	3	7		3			59
半銭		4	8	5	76		1			94
1銭	9	32	468	40	17	6	41		1	614
小判はがき		69	5	1	90		3	22	262	452
5厘		25	3		79		1	18	93	219
1銭		41	2	1	11		2	4	154	215
往復		3							15	18
計	165	634	1,916	124	311	8	281	23	319	3,781

表3　消印別エンタイヤ

❸ 明治前期の郵便印

本稿では、これまで消印という言葉を使ってきたが、これからは郵便印という郵趣用語を使う。郵便印とは、発着逓送の間、郵便物に押捺される官有の印で、その機能により抹消印と証示印とに大別される。前者は、郵便切手を消して再使用を防ぎ、後者は取扱った郵便局所とその日付を証明するものである。証示印は日付印とも呼ばれる。

以下、使用された順にしたがって、抹消印を簡単に紹介する。

⑴　不統一印

郵便創業の明治4年3月から使われた。全国の郵便取扱役（郵便局長の旧称）がそれぞれ地元の印判屋に作らせたため、その形態は千差万別で、昔から郵趣家に絶大な人気がある(2)。

⑵　二重丸印

明治6年4月、三府五港の郵便役所が使いはじめてから明治21年8月まで、全国の郵便局で使

2　中川長一は、昭和41年に『初期消印集成』（郵趣研究室発行）を発表し、1,247局、約2,380個の印影とそれに関するデータを詳細に記録した。

われた(3)。日付などの入る外円と、地名（局名）が彫られた内円から構成されるため、この名がつけられた。外円部の要素を組み合わせた分類法が一般的である(4)。

(3) 記番印

明治7年12月から、全国の郵便局で使われた抹消専用印。国名を示すカナ記号と郵便局に対応する番号から構成され、カナのイは武蔵国で、最終のイアは対馬国である。およそ2,000にのぼる交付局のうち、約1,300局の記番号が確定している(5)。

(4) 白抜記番印

明治8年1月から、東京本局で使いはじめ、ほかの6局がつづいた。記番印を小型にし、記号番号のみを白抜きとしたもの。二重丸印顆の外側に取り付けられた二連印で、一度に抹消と証示ができて能率的である。以下の印もすべてこの二連印の構造である。

(5) 白抜十字印

白抜記番印につづいて、14の一等局で使われた。

(6) クツワ十字印

明治8年10月から横浜でのみ使われた、白抜きではない印である。

(7) ツブレ印

白抜記番印や白抜十字印はすぐに摩滅し、黒くつぶれた印が多くみられる。

(8) 小型ボタ印

明治14年4月から、東京本局を除く13の一等局で使われた。局により異なるローマ字や片仮名など一文字が陰刻される。

(9) 大型ボタ印

明治14年9月から21年8月まで、一等局および駅逓局（逓信省）より局長が派遣された二等局で順次使われた。円形の小型ボタ印を楕円形に大型化したもので、同じく局名をあらわす頭字が白抜きで彫られる。使用局は全部で63あり、魅力的な収集対象である。

4 郵便切手および葉書類

エンタイヤを区分する、封筒に貼られた切手と葉書類を簡単に説明する(6)。

---

3 天野安治『二重丸型日付印詳説』郵趣研究室、1956年は、今も二重丸印についての基本文献で、1975年に複製された。

4 中川長一は戦時中、二重丸型日付印の分類法を発表した。N_1B_1、KGなどローマ字で表記する。

5 阿部昭夫『記番印の研究―近代郵便の形成過程―』名著出版、1994年。

6 毎年発行の郵便切手商協同組合編『日本切手カタログ』は、日本で発行された切手、葉書類について、図版、発行年月日、切手番号、額面、評価などを記載する。ほかに、日本郵趣協会発行の『さくら日本切手カタログ』がある。

⑴　郵便切手

当時、郵便局で売られていた郵便切手は、竜切手（明治4年発行）、桜切手（明治5年発行）、小判切手（明治9年発行）の3シリーズに分類される。

⑵　郵便封皮

郵便料額印面の印刷された封筒で、手彫封皮（明治6年発行）と小判封皮（明治10年発行）がある。切手つき封筒（stamped envelope）とも呼ばれる。

⑶　郵便帯紙

定期刊行物用の官製帯紙で、書留新聞紙（明治5年発行）、新聞帯紙（明治8年発行）、定時刊行物（明治17年発行）がある。

⑷　郵便はがき

二つ折はがきはカナ入りで、紅枠はがき（明治6年発行）、脇つきはがき（明治7年発売）、脇なしはがき（明治7年発売）の順に発行・発売された。小型はがき（明治8年発行）はカナ入りとカナなしがある。小判はがきには、普通はがき（明治9年発行）と往復はがき（明治18年発行）がある。

5 中田実コレクション

日本の郵趣は大正時代に始まり、百年の歴史と蓄積を有する趣味である。大正3年に郵楽会（木村梅次郎会長）は、機関誌『郵楽』を創刊する[7]。中田実（1877-1946）は、日本のステーショナリーの研究に没頭し、特に二つ折はがきの第二面に活版印刷された規則文字をおもな研究分野とした。没後、そのコレクションは子息の中田益実により逓信博物館に寄贈され、本エンタイヤ資料の半数を構成している。

残りの葉書類やカバーは、それ以前に収蔵されていたものと思われ、郵便博物館[8]や見本参考品などのラベルを貼付したエンタイヤが散見される（**図2**）。

図2　#1323 郵便博物館ラベルつき葉書

7　富岡昭『日本郵趣百年史』全日本郵趣連盟。戦前・戦中編（1969）、戦後編（1970）は、明治4年（1871）以降の日本の郵趣の歩みを編年体で記述し、著名郵趣家のプロフィールを紹介する。

8　郵便博物館は明治35年6月に創設され、明治43年4月に逓信博物館と改称された。

6 郵趣的に注目されるエンタイヤ

「旧エンタイア資料・1」のなかから、郵趣家が欲しがるエンタイヤを紹介する。

(1) 竜切手貼カバー

全部で4点ある。**図3-1**は、郵便創業の明治4年に西京（京都）から隣局の大津へ届けられた竜100文貼りの封筒である。**図3-2**は、明治5年の西京から周防山口あての竜200文2枚貼り封筒。西京・山口間は200里以下。**図3-3**は、明治8年の石見国川本より同国大森町あて竜1銭2枚貼り記番印つき封筒。明治6年以降の均一料金。**図3-4**は、明治5年の東京から河内国出雲井村あての竜5銭貼り封筒。200里以下の書状料金に持込税1銭を加算。

図3-1　#2 竜100文カバー

図3-2　#1 竜200文カバー

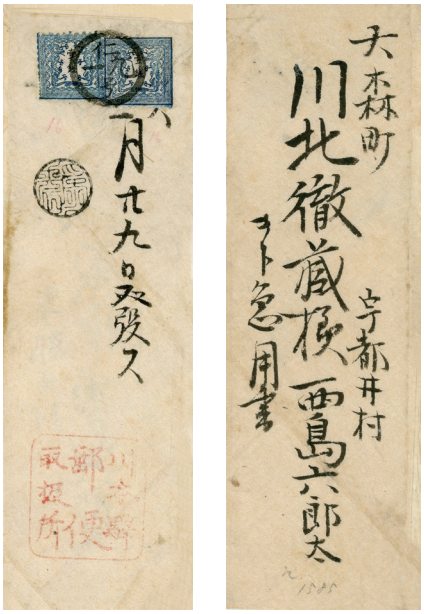

図3-3　#2387 竜1銭カバー

図3-4　#40 竜5銭カバー

⑵　桜切手貼カバー

図3-5は、明治9年の豊後国から豊前国あて洋紙桜10銭（ロ）貼り書留書状。書留料金8銭。配達の中津局は、別仕立料金「七銭」を受取人から現金で徴収。

⑶　手彫封皮

図3-6は、明治13年の武蔵国本庄から浦和あて手彫4銭封皮。別配達料2銭。差出人は本庄局長の諸井泉衛。

⑷　書留新聞紙

図3-7は、明治7年の東京府内便の書留新聞紙。新聞2部を送った帯紙は新発見。

⑸　紅枠はがき

図3-8は、明治7年の伊勢国四日市から名古屋あて紅枠1銭はがき。不統一印消は稀品。

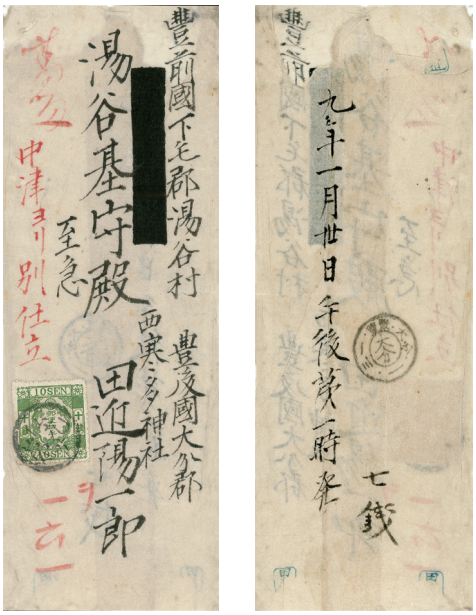

図3-5　#2694 桜10銭カバー

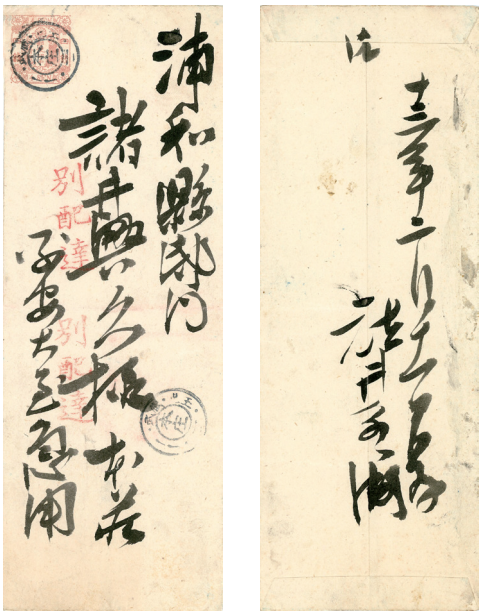

図3-6　#393 手彫4銭封皮

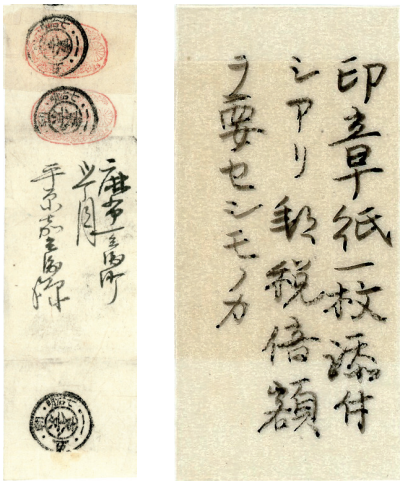

図3-7　#296 書留新聞紙

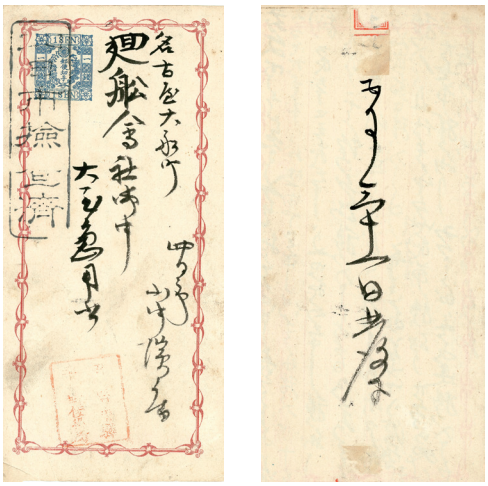

図3-8　#5 紅枠1銭はがき

❼ エンタイヤ資料を使った分析例

表4は、記番印エンタイヤについて、国別の差立て数と宛て先ごとの内訳を集計したものである。前者の数値は実際の差立て数を反映していないが(9)、後者の国ごとの傾向には信頼がおける。東日本は東京あて、西日本は京都・大阪あてが圧倒的に多いことがわかる。東西日本の境界は、東京あてと京阪あてとが拮抗する、越後と駿河・遠江を結ぶ線になる。なお、エンタイヤの大半を占める葉書は、ほとんどが商用のものである。

	記号	国名	点数	東京	大阪	京都	国内
東海道	イ	武　蔵	44	18	1	18	6
	ロ	上　総	2	1			0
	ハ	下　総	13	13			0
	ニ	常　陸	11	6			2
	ホ	安　房	0				0
	ヘ	相　模	20	13	1	1	0
	ト	伊　豆	3	2			0
	チ	甲　斐	13	6			2
	リ	駿　河	21	5	3	3	1
	ヌ	遠　江	10	3	1	2	1
	ル	三　河	20	2	4	2	2
	ヲ	尾　張	65	11	10	11	7
	ワ	志　摩	1				0
	カ	伊　勢	39	3	14	3	3
	ヨ	伊　賀	4		2		1
畿内	タ	山　城	44	0	30	8	1
	レ	大　和	64	3	36	16	6
	ソ	河　内	6		3	2	0
	ツ	和　泉	42	0	28	4	0
	子	摂　津	27	6	13	3	2
東山道	ナ	近　江	95	1	21	51	15
	ラ	美　濃	30	0	7	7	3
	ム	飛　騨	0				0
	ウ	信　濃	26	5			8
	ノ	上　野	39	15	2	11	4
	ク	下　野	25	18	1	2	1
	ヤ	磐　城	8	3			3
	マ	岩　代	18	9	3		0
	ケ	羽　前	6	1	1	1	0
	フ	羽　後	1				0
	コ	陸　前	10	2			3
	テ	陸　中	4	1			1
	ア	陸　奥	2	2			0
北陸道	サ	若　狭	6			4	0
	キ	越　前	22	0	10	6	0
	ユ	加　賀	10		5	3	2
	メ	能　登	1			1	0
	ミ	越　中	14		8	4	0
	シ	越　後	21	8	5	3	2
	ヱ	佐　渡	0				0

	記号	国名	点数	東京	大阪	京都	国内
山陰道	ヒ	丹　波	22	1	5	13	1
	モ	丹　後	3		2		0
	セ	但　馬	3		1	2	0
	ス	因　幡	5		2	2	0
	イロ	伯　耆	6		3	1	0
	イハ	出　雲	6		5		1
	イニ	石　見	5	1	1		1
	イホ	隠　岐	0				0
山陽道	イヘ	播　磨	56	0	42	11	1
	イト	美　作	5		3	2	0
	イチ	備　前	20	1	16	2	0
	イリ	備　中	6		5		0
	イヌ	備　後	24	3	12	8	1
	イル	安　芸	18		15	3	0
	イヲ	周　防	10		10		0
	イワ	長　門	9		6	1	0
南海道	イカ	紀　伊	91	1	68	3	12
	イヨ	淡　路	5		3		1
	イタ	阿　波	4		2		0
	イレ	讃　岐	18		13	4	0
	イソ	伊　予	11		7	2	2
	イツ	土　佐	4				4
西海道	イ子	筑　前	6		3	3	0
	イナ	筑　後	2			1	0
	イラ	豊　前	12	1	8	2	1
	イム	豊　後	6		3	1	1
	イウ	肥　前	12		5		5
	イノ	肥　後	6	1	4	1	0
	イク	日　向	5		5		0
	イヤ	大　隅	0				0
	イマ	薩　摩	1		1		0
北海道	イケ	渡　島	1				0
	イフ	胆　振	0				0
	イコ	石　狩	1				0
	イテ	後　志	0				0
島嶼	イア	対　馬	0				0
	ー	壱　岐	0				0
		計	1,170	166	459	228	107

※三府発の郵便物をのぞく。

表4　記番印エンタイヤの国別あて先数

9 『駅逓局第七次年報（明治十年度）』の「本局外六局及ヒ諸管轄内郵便物差立区分表」は、本局ほか府県別の年間差立て数を載せる。

❽ 付記

この暫定データベースにエンタイヤの画像を追加すれば完成である。本データベースが、近い将来、郵政博物館のデータベースに取り込まれ、公開される日を心待ちにしている。

なお筆者は、本エンタイヤ資料を使って、郵趣誌に以下の論文を発表した。

近辻喜一「大阪の川支延着印」『IZUMI』第365号、2016年9月1日
近辻喜一「東京発西京・大阪行き郵便」『IZUMI』第366号、2016年12月1日
近辻喜一「横浜発東京行き郵便」『最近の情報（154）』、2016年12月20日
近辻喜一「明治8年の東京」『IZUMI』第367号、2017年3月1日
近辻喜一「横浜発東京行き郵便（続き）」『最近の情報（157）』、2017年3月20日
近辻喜一「近江発京都行き郵便」『IZUMI』第368号、2017年6月18日
近辻喜一「横浜夜便」『最近の情報（160）』、2017年6月20日
近辻喜一「紀伊国の記番印」『最近の情報（162）』、2017年8月20日
近辻喜一「記番印のイロハ」『The Philatelist Magazine』Vol. 17、2017年12月15日

（ちかつじ　きいち　郵便史研究会会長）